



平成24年 2 月期 第 1 四半期決算短信 [ 日本基準 ] ( 連結 )

平成23年 7 月14日

上場会社名 株式会社エスケイジャパン 上場取引所 東 大  
 コード番号 7608 U R L <http://www.sk-japan.co.jp>  
 代表者 ( 役職名 ) 代表取締役社長 ( 氏名 ) 久保 敏志  
 問合せ先責任者 ( 役職名 ) 取締役管理部長 ( 氏名 ) 川上 優 T E L ( 06 ) 6765 - 0670  
 四半期報告書提出予定日 平成23年 7 月15日  
 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家・アナリスト向け )

( 百万円未満切捨て )

1 . 平成24年 2 月期第 1 四半期の連結業績 ( 平成23年 3 月 1 日 ~ 平成23年 5 月31日 )

( 1 ) 連結経営成績 ( 累計 ) ( %表示は、対前年同四半期増減率 )

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年 2 月期第 1 四半期	1,946	15.1	23	-	28	-	44	-
23年 2 月期第 1 四半期	2,292	2.6	127	122.9	129	95.9	15	93.0

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年 2 月期第 1 四半期	5	38	-	-
23年 2 月期第 1 四半期	1	93	-	-

( 2 ) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1 株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
24年 2 月期第 1 四半期	3,733		1,819		48.4		219	59
23年 2 月期	3,300		1,913		57.6		231	27

( 参考 ) 自己資本 24年 2 月期第 1 四半期 1,806百万円 23年 2 月期 1,902百万円

2 . 配当の状況

	年間配当金									
	第 1 四半期末		第 2 四半期末		第 3 四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年 2 月期	-	-	6	00	-	-	6	00	12	00
24年 2 月期	-	-								
24年 2 月期 ( 予想 )			6	00	-	-	6	00	12	00

( 注 ) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3 . 平成24年 2 月期の連結業績予想 ( 平成23年 3 月 1 日 ~ 平成24年 2 月29日 )

( %表示は、通期は対前期、第 2 四半期 ( 累計 ) は対前年同四半期増減率 )

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第 2 四半期 ( 累計 )	4,675	4.2	122	47.0	123	46.2	108	25.7	13	13
通期	9,500	0.4	288	0.4	290	1.0	245	76.0	29	81

( 注 ) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 - 社（社名） 除外 - 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 : 有

以外の変更 : 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年2月期1Q	8,359,103株	23年2月期	8,359,103株
24年2月期1Q	133,802株	23年2月期	133,802株
24年2月期1Q	8,225,301株	23年2月期1Q	8,225,533株

期末自己株式数

期中平均株式数（四半期累計）

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1．当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2．その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3．四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間は、緩やかな景気回復基調を示しておりましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により、東日本を中心に経済活動が低迷し、国内経済と個人消費の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの属する卸売業界及び小売業界におきましても、年初から回復傾向にあった消費動向は震災発生以降、消費者の生活防衛意識の高まりや自粛ムードにともなう消費抑制等が顕著なものとなり、先行きの見通しの不透明感が強まっております。

このような事業環境のもと、当社グループでは絶えず変化する消費者ニーズを的確にキャッチし、それを商品企画に反映させるための諸施策を推進し、チェーン展開するオペレーターや小売店のシェアアップを図りましたが、前年同期にヒットした「スージー・ズー」や「ワンピース」「ウサビッチ」等の反動と、アミューズメント部門の商品企画が思うように進まず、メーカー系・量販店系オペレーターへの売上高は大きく落ち込む結果となりました。

これにより、売上高は1,946百万円（前年同期比15.1%減）となりました。グループ全体で推進した一般経費の削減により販売費及び一般管理費は前年同期比で2.7%減少しましたが、売上高減少の影響により、営業損失は23百万円（前年同期は127百万円の営業利益）、経常損失は28百万円（前年同期は129百万円の経常利益）、四半期純損失は44百万円（前年同期は15百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの概況は次のとおりであります。

当社グループにおける従来のセグメント区分は「卸売事業」及び「小売事業」でしたが、当第1四半期連結会計期間より、セグメント情報等の開示に関する会計基準等を適用し、「卸売事業」を「キャラクターエンタテインメント事業」と「キャラクター・ファンシー事業」に、「小売事業」の名称を「リテイル事業」に変更しております。なお、前年同四半期比較にあたっては、変更後のセグメント区分に組み替えております。

#### <キャラクターエンタテインメント事業>

アミューズメント部門におきましては、重点施策として多店舗展開するオペレーターへの販売強化を進めてまいりました。SC（ショッピングセンター）系オペレーター及び路面店への売上高は前年同期を上回りましたが、商品企画の遅れと前年同期にヒットした「スージー・ズー」の反動により、売上高は893百万円（前年同期比14.3%減）となりました。

SP（セールスプロモーション）部門におきましては、前年同期に好調であった製薬会社向けノベルティー商品の受注が振るわず、売上高は207百万円（前年同期比34.1%減）となりました。

EC（イーコマース）部門におきましては、チラシ配布や他社サイトとのユーザー乗り入れを行い、知名度の向上を引き続き行いました。また、これに連動して、オリジナルキャラクターである「でぶねこ」のEC専用商品の開発と投入による競合他社との差別化を図りました。商品では、人気キャラクターのフィギュアやストラップ、化粧雑貨等が好調に推移し、売上高は17百万円（前年同期比102.0%増）となりました。

以上の結果、売上高は1,118百万円（前年同期比18.1%減）、営業損失は35百万円（前年同期は81百万円の営業利益）となりました。

#### <キャラクター・ファンシー事業>

当事業におきましては、新規のゲームキャラクターの商材が好調であったものの、前年の売上を牽引していた人気キャラクターに多少の落ち着きが見え始めたことが影響し、売上高は606百万円（前年同期比10.2%減）、営業利益は16百万円（前年同期比55.2%減）となりました。

#### <リテイル事業>

当事業におきましては、「ナカヌキヤ」3店舗のうち、広島本通り店及び松山銀天街店は利益を確保したものの、心斎橋店は、東日本大震災の影響による外国人観光客の激減及び近隣の大規模商業施設の相次ぐオープンの影響を受け、厳しい状況となりました。

「SALAD BOWL」では、TSUKASHI IN店が近隣にオープンした大型ショッピングセンターの影響を受けて苦戦しましたが、他の2店舗が好調を維持し堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は220百万円（前年同期比12.1%減）、営業損失は8百万円（前年同期は5百万円の営業利益）となりました。

( 2 ) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ432百万円増加し、3,733百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加額260百万円、受取手形及び売掛金の増加額90百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し、1,913百万円となりました。これは主に、買掛金の増加額289百万円、短期借入金の増加額150百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ93百万円減少し、1,819百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少額93百万円によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて260百万円増加し、1,131百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

営業活動の結果得られた資金は、141百万円(前年同期は266百万円の獲得)となりました。

これは主に、売上債権の増加額が90百万円、たな卸資産の増加額が54百万円及び法人税等の支払額が49百万円あったこと等により一部相殺されたものの、仕入債務の増加額が290百万円あったこと等を反映したものであります。

( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

投資活動の結果使用した資金は、24百万円(前年同期は3百万円の使用)となりました。

これは主に、保険積立金の積立による支出が18百万円及び有形固定資産の取得による支出が4百万円あったこと等を反映したものであります。

( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

財務活動の結果得られた資金は、143百万円(前年同期は190百万円の獲得)となりました。

これは主に、短期借入金の純増額が150百万円あったこと等を反映したものであります。

( 3 ) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年2月期の連結業績予想につきましては、前回予想(平成23年4月14日に発表した平成24年2月期の連結業績予想)から変更はございません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業損失及び経常損失が271千円増加し、税金等調整前四半期純損失は6,408千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は9,967千円であります。

表示方法の変更

（四半期連結損益計算書）

「受取家賃」は前第1四半期連結累計期間まで営業外収入の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第1四半期連結累計期間における営業外収入の総額の100分の20を超えたため区分掲記いたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間における「受取家賃」の金額は660千円であります。

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3 . 四半期連結財務諸表  
 ( 1 ) 四半期連結貸借対照表

( 単位 : 千円 )

	当第 1 四半期連結会計期間末 (平成23年 5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年 2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,131,152	871,000
受取手形及び売掛金	1,072,889	982,039
商品	382,895	327,970
未収還付法人税等	76,755	74,962
繰延税金資産	17,501	18,960
その他	82,598	68,402
貸倒引当金	6,593	5,861
流動資産合計	2,757,199	2,337,474
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	432,299	428,469
減価償却累計額	153,151	150,245
建物及び構築物 (純額)	279,148	278,223
車両運搬具	10,950	8,609
減価償却累計額	5,139	4,385
車両運搬具 (純額)	5,811	4,224
その他	65,078	63,233
減価償却累計額	48,144	45,526
その他 (純額)	16,934	17,707
土地	266,356	266,356
有形固定資産合計	568,250	566,511
無形固定資産		
無形固定資産合計	7,333	7,206
投資その他の資産		
投資有価証券	46,963	50,497
繰延税金資産	1,148	3,792
その他	369,563	352,602
貸倒引当金	17,068	17,098
投資その他の資産合計	400,608	389,793
固定資産合計	976,192	963,511
資産合計	3,733,391	3,300,986

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	951,054	661,112
短期借入金	500,000	350,000
未払法人税等	3,101	46,398
繰延税金負債	5,620	5,620
賞与引当金	85,588	43,774
その他	214,607	140,449
流動負債合計	1,759,971	1,247,356
固定負債		
退職給付引当金	11,483	10,645
役員退職慰労引当金	129,734	127,883
資産除去債務	9,997	-
その他	2,295	1,255
固定負債合計	153,510	139,784
負債合計	1,913,482	1,387,140
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	440,948	440,948
資本剰余金	471,887	471,887
利益剰余金	945,064	1,038,677
自己株式	51,190	51,190
株主資本合計	1,806,710	1,900,323
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,869	4,165
繰延ヘッジ損益	340	291
為替換算調整勘定	2,082	1,950
評価・換算差額等合計	553	1,923
新株予約権	13,752	11,598
純資産合計	1,819,909	1,913,845
負債純資産合計	3,733,391	3,300,986



(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)
売上高	2,292,493	1,946,415
売上原価	1,630,751	1,449,438
売上総利益	661,742	496,976
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	179,251	185,850
賞与引当金繰入額	46,900	41,813
退職給付費用	4,324	8,999
役員退職慰労引当金繰入額	1,809	1,850
貸倒引当金繰入額	-	731
その他	302,095	280,961
販売費及び一般管理費合計	534,381	520,207
営業利益又は営業損失( )	127,361	23,231
営業外収益		
受取利息	115	78
受取配当金	539	322
投資有価証券評価損戻入益	1,296	-
受取家賃	-	475
為替差益	1,160	-
その他	1,249	532
営業外収益合計	4,361	1,408
営業外費用		
支払利息	1,398	1,120
投資有価証券評価損	-	1,935
為替差損	-	2,732
その他	485	447
営業外費用合計	1,883	6,235
経常利益又は経常損失( )	129,838	28,058
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2,554	-
その他	72	-
特別利益合計	2,626	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	6,136
商品不良損失	102,931	-
特別損失合計	102,931	6,136
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	29,533	34,195
法人税、住民税及び事業税	13,420	4,455
法人税等調整額	207	5,609
法人税等合計	13,628	10,065
少数株主損益調整前四半期純損失( )	-	44,261
四半期純利益又は四半期純損失( )	15,905	44,261

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	29,533	34,195
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	6,136
賞与引当金の増減額( は減少)	46,900	41,813
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	1,809	1,850
貸倒引当金の増減額( は減少)	6,945	701
退職給付引当金の増減額( は減少)	258	837
受取利息及び受取配当金	655	400
支払利息	1,398	1,120
投資有価証券評価損益( は益)	1,296	1,935
売上債権の増減額( は増加)	25,335	90,859
たな卸資産の増減額( は増加)	7,192	54,951
仕入債務の増減額( は減少)	326,386	290,022
その他	26,253	28,567
小計	455,653	192,578
利息及び配当金の受取額	832	475
利息の支払額	1,486	1,143
法人税等の支払額	188,664	49,997
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>266,335</b>	<b>141,912</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
保険積立金の積立による支出	-	18,137
有形固定資産の取得による支出	2,573	4,840
その他	1,183	1,162
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,757</b>	<b>24,140</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	200,000	150,000
自己株式の取得による支出	9	-
配当金の支払額	9,204	6,808
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>190,786</b>	<b>143,191</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,194	811
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	454,558	260,152
現金及び現金同等物の期首残高	823,796	871,000
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,278,355	1,131,152

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

	卸売事業 (千円)	小売事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,041,446	251,047	2,292,493	-	2,292,493
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	938	-	938	(938)	-
計	2,042,384	251,047	2,293,431	(938)	2,292,493
営業利益	121,390	5,789	127,179	181	127,361

(注) 1. 事業区分は、販売方法の類似性を考慮し、卸売事業、小売事業に区分しております。

2. 各事業区分の主な役務

(1) 卸売事業・・・キャラクターグッズ等のアミューズメント施設、物販専門店・量販店等への卸販売及び  
電子玩具・電子雑貨等の企画開発

(2) 小売事業・・・キャラクターグッズ、化粧品、コスメティック等の小売

3. 営業費用のうち、配賦不能営業費用はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、(株)エスケイジャパン、(株)サンエス、(株)ケー・ディー・システム、(株)ナカヌキヤ、SKJ USA, INC. の5事業会社を軸として展開しており、以下の事業内容に基づき「キャラクターエンタテインメント事業」、「キャラクター・ファンシー事業」、「リテイル事業」の3つを報告セグメントとしております。

<キャラクターエンタテインメント事業> (株)エスケイジャパン SKJ USA, INC.

主として、キャラクターのぬいぐるみ、キーホルダー等を国内外のアミューズメント施設へ販売する事業及び企業の販売促進商品を企画販売する事業であります。

<キャラクター・ファンシー事業> (株)サンエス (株)ケー・ディー・システム

キャラクターのぬいぐるみ、キーホルダー等を雑貨専門店や量販店等へ販売する事業であります。

<リテイル事業> (株)ナカヌキヤ

「ナカヌキヤ」「SALAD BOWL」で生活雑貨、コスメ等を販売する事業であります。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	キャラクター エンタテイン メント事業	キャラクター・ ファンシー 事業	リテイル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,118,763	606,887	220,764	1,946,415	-	1,946,415
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,375	31,435	-	33,810	(33,810)	-
計	1,121,138	638,323	220,764	1,980,225	(33,810)	1,946,415
セグメント利益 又は損失( )	35,255	16,895	8,271	26,631	3,400	23,231

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額3,400千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失と調整しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。